

7

ポイントのきまり

学習日

—

ポイント

《ことばの単位》

ことばは、次のような単位で分けられます。

○文：句点（。）による切れ目で区切られた場合の一区切りを文と言います。

例 自転車で駅へ向かった。やがて駅に着いた。（二つの文で構成された文章）

○文節：文を、意味が不自然にならない程度にできるだけ細かく区切った場合の一区切り（「ネ・サ」をつけて不自然でないもの）を文節と言います。

例 自転車で／駅へ／向かった。（三文節で構成された文）

○単語：…文節を、これ以上区切るとことばでなくなるぎりぎりまで分けたものを単語と言います。これがことばの最小単位となります。

例 自転車／で／駅／へ／向か／つた。（六単語で構成された文）

《主語・述語》

文は基本的に「何が―どうする」「何が―どんなだ」「何が―何だ」という形で成り立っています。「何が」を表す主語は、文中で説明の中心になっていることばです。「どうする・どんなだ・何だ」を表す述語は、主語についての説明を述べていることばです。

○何が どうする ↓ 例 ちようちよが 飛ぶ。

○何が どんなだ ↓ 例 値段が 高い。

○何が 何だ ↓ 例 特技が サッカーだ。

文全体の主語・述語は、次のような手順でとらえましょう。

① まず最初に述語を見つけてみます。述語は、「きれいだな、星が。」のような倒置の文以外は、必ず文末にあるので、すぐに見つけることができます。

② 述語を見つけたら、次に、主語になりそうなことばを選び、「は・も・の・こそ・さえ・でも・なら・だって」などの部分で「が」に置きかえます。

③ 「が」を付けた主語になりそうなことばと述語を続けてみて、文意が通るようであれば、そのことばは主語になります。

例 先生の読んだ本を**ぼくも**読みたい。
この例文の場合、述語「読みたい」をまず見つけ、「**ぼくも**」を「**ぼくが**」に直して、「**ぼくが**―読みたい」としても文意が通るので、「**ぼくも**」が主語と判断できます。

《修飾語》

主語や述語などのことばと結びつき、それらのことばをくわしく説明することばを修飾語（かざりことば）といいます。これに対して、修飾語にくわしく説明される側のことばを被修飾語といいます。修飾語はふつう被修飾語よりも前に置かれます。